

## [020]学生法政論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/7409293>

---

出版情報：学生法政論集. 20, 2026-03-25. Hosei Gakkai (Institute for Law and Politics) Kyushu University

バージョン：

権利関係：



## 編集後記

本年度は4本の論文を掲載することができました。どの論文も個性的で、若さと力強さにあふれていました。

学生時代に一所懸命に論文を書き上げたという努力は、それ自体が称賛されるべきことです。

今回応募された方も、そうでない方も、同じ時期に学んだ仲間がこのような論文を書いていることを知っていただければと思います。また、論文執筆者にとって、この小冊子が一生の宝物となることを願っています。(A. E.)

『学生法政論集』に投稿されたみなさん、本当にご苦労様でした。いずれの論文も素晴らしい出来栄でありました。こころから、お礼を申し上げます。今年の論集は、様々な分野の論文が掲載されており、たいへん読み応えのあるものとなっています。応募資格のある法政学会会員の学生のみなさん、ぜひ、ご一読を。そして、来年は、みなさん自身も、挑戦してください。(K. T.)

情報を集めるだけでなく、その加工も容易な時代になりました。その一方で、日頃の学習から問題意識を持ち、自ら調べ、熟考し、適切な手法で論文を執筆することは、非常に効率の悪い作業であることも事実です。それにもかかわらずたゆまぬ努力を重ね、素晴らしい成果を結実させたこの学生法政論集での経験は、執筆者の皆様にとってかけがえのない糧になるものと確信しております。皆様の健闘を心よりお祝い申し上げます。(KM)

今年も多くの投稿があり、大変喜んでおります。ご投稿いただいた皆様には、感謝申し上げます。書いてみて分かることも多かったのではないのでしょうか。論文の構想といった大きなところから、注の付け方といった細かなところまで、論文の執筆には細心の注意が必要です。この経験は、将来きっと役に立ちます。これから、大いに羽ばたいてください。応援しています。(T. I.)

今回もまた、いくつもの力作が集まり、とても喜ばしく思います。論文を執筆した経験があるのとないのでは、色々と大きく異なります。

学生生活の総仕上げとして、また、大学で育まれた学問的な技能を発揮し、そこで身につけた教養を「かたち」に残し、さらには後輩にも伝えていくという意味でも次回も多くの皆さんが挑戦されることを願っています。(T. K)

本年度の応募論文を拝見いたしました。執筆に心血を注がれた皆さんの真摯な取り組みに対し、深く敬意を表します。一つのテーマを掘り下げ、論理の筋道を立てて表現するプロセスは、学術の世界のみならず、将来のあらゆる場面で皆さんの支えとなる一生ものの財産です。この貴重な経験を糧として、今後さらなる飛躍を遂げられることを心から祈念しております。(SVU)